

3

用紙の仕様

用紙とは、普通紙、厚紙、OHP フィルム、ラベル、封筒のことです。最後の 4 つは専用紙と呼ばれることもあります。本機では、さまざまな用紙に高品質な印刷を行うことができます。印刷前に、用紙に関連する多くの事柄を考慮に入れておく必要があります。この章では、用紙の選択および扱い方について説明します。

用紙についてのガイドライン

プリンタに適した用紙を選択すると、印刷上の問題を防ぐことができます。

以下のセクションでは、プリンタに適した正しい用紙を選択するためのガイドラインについて説明します。

用紙

最高の印刷品質と給紙の信頼性を確保するには、90 g/m² (24 lb) ゼログラフィ縦目用紙を使用します。一般的なビジネス用途向けに設計されたビジネス用紙でも十分な印刷品質を得ることができます。

どのような種類の用紙であっても、大量に購入する前に、必ずサンプルを印刷してください。用紙を選択する場合は、重さ、繊維含有率、色を考慮してください。

レーザー印刷処理では、非 MICR アプリケーションの場合、用紙の温度が熱により 230°C (446°F) の高温になります。退色、にじみ、または有毒ガスの放出を伴わずにこの温度に耐えられる用紙のみを使用してください。選択した用紙をレーザープリンタで使用できるかどうかを判断するには、メーカーまたはベンダに問い合わせてください。

用紙をセットする場合は、用紙のパッケージに記載されている推奨印刷面に注意し、それに従ってセットします (⇒「カセットに用紙をセットする」)。

用紙特性

以下の用紙特性は、印刷の品質と信頼性に影響します。新しい用紙を評価する場合は、このガイドラインに従うことをお勧めします。

用紙の仕様

重さ

プリンタは、60 ~ 176 g/m² (16 ~ 47 lb ボンド) 縦目の用紙を自動的に取込みます。60 g/m² (16 lb) より軽い用紙は、適切に取り込むには堅さが足りず、紙づまりの原因となります。最適なパフォーマンスを実現するには、90 g/m² (24 lb ボンド) 縦目の用紙を使用してください。182 × 257 mm (7.2 × 10.1 インチ) より幅が狭い用紙を使用する場合は、重さが 90 g/m² (24 lb ボンド) 以上の用紙を使用することをお勧めします。

カール

カールとは、用紙の先端が丸まる傾向のことです。カールが大きすぎると、用紙の取り込み時に問題が発生することがあります。カールは、高温になっているプリンタ内部を用紙が通過した後に発生することがあります。包装されていない用紙を高温、多湿、低温、または乾燥した状態で保管すると、それがカセット内であっても印刷前に用紙がカールすることがあり、取り込みの問題の原因となります。

平滑度

用紙の平滑度は、印刷品質に直接影響します。用紙のきめが粗すぎる場合、トナーが適切に定着せず、印刷品質の低下を招きます。用紙が滑らかすぎると、用紙の取り込みや印刷品質の問題の原因となることがあります。平滑度は、100 ~ 300 シェフィールドポイントである必要があります。ただし、最高の印刷品質は 150 ~ 200 シェフィールドポイントの平滑度で実現されます。

含水率

用紙に含まれる水分の量は、印刷品質とプリンタの適切な用紙取り込みの両方に影響します。用紙は、使用するときまで元の包装に入れたままにしておいてください。これにより、用紙が湿度の変化にさらされてパフォーマンスが低下する可能性を最小限に抑えることができます。

用紙が元の包装に入っている間に、用紙の状態を調整してください。用紙の状態を調整するには、印刷前 24 ~ 48 時間は用紙をプリンタと同じ環境に保管し、用紙が新しい状態で安定するようにします。保管または輸送環境がプリンタ環境と大きく異なる場合は、時間を数日延ばしてください。厚い用紙の場合も、量が多くなるため、より長時間の調整が必要になる場合があります。

紙目

紙目とは、用紙の繊維の方向のことです。紙目には、用紙の縦方向に延びる縦目と用紙の横方向に延びる横目があります。

60 ~ 90 g/m² (16 ~ 24 lb ボンド) の用紙の場合は、縦目の繊維を推奨します。

繊維含有率

最高品質のゼログラフィ用紙は、100% の化学処理済みパルプ木材から作られています。この含有率により、用紙の安定度が高まるとともに、用紙の取り込みの問題が減少し、印刷品質が向上します。コットンなどの繊維を含む用紙には、用紙の取扱いに悪影響を与える可能性のある特性があります。

使用できない用紙

次の用紙は、プリンタで使用しないでください。

- ノーカーボン紙、感圧複写紙（CCP）、またはカーボン不要（NCR）紙とも呼ばれる、コピーの作成に使用される化学処理済みの用紙
- プリンタを汚染する可能性のある化学薬品を使用したプレプリント用紙
- プリンタフューザの温度の影響を受ける可能性のあるプレプリント用紙
- 光学式文字認識（OCR）フォームなど、 ± 2.3 mm (± 0.09 インチ) よりも高い精度で位置合わせする必要があるプレプリント用紙

場合によっては、ソフトウェアアプリケーションで位置合わせを調整して、これらのフォームに正常に印刷できることがあります。

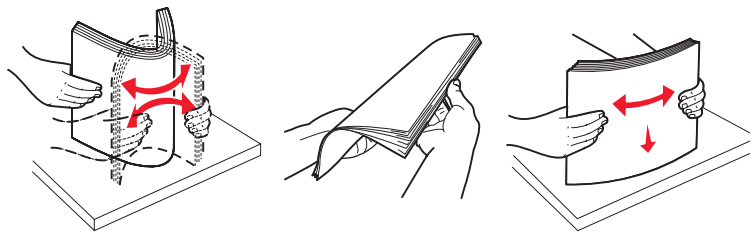
- コーティングされた用紙（消去可能ボンド）、合成紙、または感熱紙
- 縁がぎざぎざな用紙、表面のきめが粗い用紙、ざらつきのある用紙、またはカールした用紙
- 消費材廃棄物の含有率が 25% を超える、DIN 19309 を満たさない再生紙
- 重量が 60 g/m^2 (16 lb) 未満の用紙
- マルチパートフォームまたはドキュメント

用紙を選択する

適切な用紙をセットすることで、紙づまりを防ぎ、問題のない印刷を行うことができます。

紙づまりと印刷品質の低下を防ぐには

- 必ず新しく損傷のない用紙を使用する。
- 用紙をセットする前に、用紙の推奨印刷面を確認する。通常、この情報は用紙のパッケージに記載されています。
- 手で切った用紙は**使用しない**。
- 大きさ、重さ、種類が異なる用紙を 1 つのカセットに**セットしない**。これらを混在させると紙づまりが発生します。
- 電子写真印刷用に特に設計されていない限り、コーティングされた用紙を**使用しない**。
- 自動大きさ検知機能をサポートしない給紙源を使用する場合は、用紙の大きさの設定を**必ず変更する**。
- ジョブの印刷中、または操作パネルで【ビジー】が点滅しているときは、カセットを**取り外さない**。
- [用紙の種類]、[用紙重さ（厚さ）] が正しく設定されていることを確認する（⇒説明書類 CD に収録されている『メニューとメッセージガイド』の「用紙メニュー」）。
- 用紙がカセットに正しくセットされていることを確認する。
- 用紙を上下にまげてほぐす。用紙を折ったり畳んだりしないでください。平らな面で端を揃えます。



用紙を保管する

用紙の取り込み時の問題を防いで印刷品質を安定させるため、以下のガイドラインに従ってください。

- 温度約 21°C (70°F)、相対湿度 40% の環境で用紙を保管する。
- 用紙をダンボール箱に入れ、台の上か棚において床より高い場所で保管する。

用紙の仕様

- 梱包された用紙を元のダンボール箱から出して保管する場合は、平らな場所に保管し、用紙の端がゆがんだりカールしたりしないようにする。
- 梱包された用紙の上には何も置かない。
- 用紙は、使用するときまで元の包装に入れて保管する。

プレプリントフォームとレターヘッド紙を選択する

プリンタのプレプリントフォームとレターヘッド紙を選択する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- 60 ~ 90 g/m² の重さの縦目用紙を使用する。
- オフセットリトグラフ印刷または写真版印刷処理を使用して印刷されたフォームおよびレターヘッド紙のみ使用する。
- 表面のきめが粗い用紙やざらつきが大きい用紙は避ける。

ゼログラフィコピー機用に設計された耐熱インクを使用して印刷された用紙を使用してください。このインクは、溶解したり有毒ガスを放出したりせずに 230°C (446°F) までの温度に耐えられる必要があります。トナーの樹脂に影響されないインクを使用してください。酸化状態または石油を主成分としたインクはこれらの要件を満たすはずですが、ラテックス製インクはこれらの要件を満たさない場合があります。判別できない場合は、用紙の供給元に問い合わせてください。

レターヘッド紙などのプレプリントされた用紙は、溶解したり有毒ガスを放出したりせずに 230°C (446°F) までの温度に耐えられる必要があります。

レターヘッド紙に印刷する

選択したプレプリントレターヘッド紙をレーザープリンタで使用できるかどうかを判断するには、メーカーまたはベンダにお問い合わせください。

レターヘッド紙に印刷する場合は、用紙方向が重要です。レターヘッド紙を給紙源にセットする場合は、次の表を参照してください。

給紙源または処理	印刷面	ページの上端
カセット	印刷されたレターヘッドを下に向ける	レターヘッドをカセットの左側に向けます。
カセットからの両面印刷	印刷されたレターヘッドを上に向ける	レターヘッドをカセットの右側に向けます。
多目的フィーダ	印刷されたレターヘッドを上に向ける	レターヘッドの上部をフィーダに挿入する必要があります。
多目的フィーダからの両面印刷	印刷されたレターヘッドを下に向ける	レターヘッドの上部をフィーダの上または右側に向ける必要があります。

OHP フィルム

OHP フィルムは、標準カセットまたは多目的フィーダから給紙します。プリンタでの使用を検討している OHP フィルムを大量に購入する前に、その OHP フィルムにサンプルを印刷してください。

OHP フィルムに印刷する場合

- プリンタの破損を防ぐため、プリンタドライバ、MarkVision™ Professional、またはプリンタの操作パネルで、[用紙の種類] を [OHP フィルム] に設定する。
- レーザープリンタ用に設計された OHP フィルムを使用する。溶解、退色、ずれ、または有毒ガスの放出を伴わずに 230°C (446°F) までの温度に耐えられる OHP フィルムを使用する。
- 印刷品質に関する問題を防ぐために、OHP フィルムに指紋が付着しないようにする。
- OHP フィルムをセットする前に、フィルムの束をパラパラめくって、くっつかないようにする。

OHP フィルムを選択する

本機では、レーザープリンタ用に設計された OHP フィルムに直接印刷できます。印刷品質と耐久性は、使用する OHP フィルムによって異なります。使用を検討している OHP フィルムを大量に購入する前に、必ずその OHP フィルムにサンプルを印刷してください。

紙づまりの発生を防ぐために、[用紙の種類] を [OHP フィルム] に設定してください（⇒説明書類 CD に収録されている『メニューとメッセージガイド』の「用紙の種類」）。メーカーまたはベンダに問い合わせ、OHP フィルムがレーザープリンタによる 230°C (446°F) までの加熱に耐えられることを確認してください。溶解、退色、ずれ、または有毒ガスの放出を伴わずにこのような高温に耐えられる OHP フィルムのみを使用してください。

封筒

プリンタでの使用を検討している封筒を大量に購入する前に、その封筒にサンプルを印刷してください（⇒「多目的フィーダに用紙をセットする」）。

封筒に印刷する場合

- 可能な限り最高の印刷品質を得るには、レーザープリンタ専用の高品質封筒を使用する。
- 操作パネル、プリンタソフトウェア、または MarkVision Professional の [用紙メニュー] で、使用する給紙源に基づいて [給紙源] を設定し、[用紙の種類] を [封筒] に設定してから、正しい封筒サイズを選択する。
- 最適なパフォーマンスを実現するには、90 g/m² (24 lb ボンド) の用紙から作られた封筒を使用する。コットン含有率が 25% 以下の場合、250 枚標準カセットには 105 g/m² (28 lb ボンド) までの重量の封筒を使用する。コットン含有率が 100% の封筒は、重量が 90 g/m² (24 lb ボンド) 以下である必要があります。
- 新しく損傷のない封筒のみ使用する。
- パフォーマンスを最適化し、紙づまりを最小限にするため、以下のような封筒は使用しない。
 - － カールやねじれが大きい封筒
 - － 封筒同士が張り付いているものや、何らかの損傷のある封筒
 - － 窓、穴、ミシン目、切り抜き、またはエンボスのある封筒
 - － 金属製の留め具、ひも、または金属製の折れ筋のある封筒
 - － かみ合わせのデザインのある封筒
 - － 切手が貼付されている封筒
 - － 垂れ蓋に封をしたとき、または閉じたときに接着剤がはみ出る封筒
 - － 端に刻み目があるかまたは角が折れ曲がった封筒
 - － きめの粗い、しわのある、またはすの目仕上げの封筒
- 封印、過度のカール、しわ、または有毒ガスの放出を伴わずに 230°C (446°F) までの温度に耐えられる封筒を使用する。使用を検討している封筒に不明な点がある場合は、封筒の供給元に問い合わせてください。
- 高い湿度（60% 以上）と高い印刷温度が組み合わさると、封筒に封がされることがあります。

ラベル

本機では、レーザープリンタ用に設計された用紙ラベルも使用できます。ラベルには、レターサイズ、A4 サイズ、リーガルサイズがあります。ラベルの接着剤、前面シート（印刷用ストック）、表面コーティングが、230°C（446°F）の温度と 25 psi の圧力に耐えられる必要があります。

使用を検討しているラベルを大量に購入する前に、そのラベルにサンプルを印刷してください。

メモ：本機は、少量の用紙ラベルを時おり印刷するという前提で設計されています。

ラベルに印刷する場合

- [用紙] メニューで、[用紙の種類] メニュー項目を [ラベル] に設定する。プリンタの操作パネル、プリンタドライバ、または MarkVision Professional で [用紙の種類] を設定する。
- ラベルを用紙または OHP フィルムと一緒に 1 つの給紙源にセットしない。これらを混在させると、用紙の取り込み時に問題が発生することがあります。
- 裏面がつやのある素材でできているラベルは使用しない。
- ダイカットから 1 mm（0.04 インチ）以内には印刷しない。
- ラベル用紙全体を使用する。用紙の一部だけを使用すると、印刷時にラベルがはがれ、紙づまりが発生することがあります。また、接着剤でプリンタやカートリッジが汚染され、プリンタやカートリッジの保証対象外となることもあります。
- 230°C（446°F）以下の温度で封印されたり、過度のカールやしわの発生、または有毒ガスの放出を伴わないラベルを使用する。
- ラベルの端やミシン目から 1 mm（0.04 インチ）以内、またはラベルのダイカット間には印刷しない。
- 用紙の端に接着剤がついているラベル用紙を使用しない。接着剤のゾーンコーティングが、端から少なくとも 1mm（0.04 インチ）離れているラベルの使用をお勧めします。接着剤によってプリンタが汚染され、保証対象外となることがあります。
- 接着剤のゾーンコーティングが不可能な場合は、リーディングエッジとドライバエッジで 3mm（0.125 インチ）の細片を取り除き、にじみ出てこない接着剤を使用する。
- ラベルがプリンタ内ではがれないように、リーディングエッジから 3 mm（0.125 インチ）の細片を取り除く。
- バーコードを印刷する場合は、できるだけ縦方向に印刷する。
- 接着剤が露出しているラベルは使用しない。

厚紙

厚紙は単一の層から成っており、含水率、厚さ、テクスチャなどのさまざまな特性が印刷品質に大きく影響します。用紙の紙目に適した重量については、「給紙源と仕様を確認する」を参照してください。

使用を検討している厚紙を大量に購入する前に、そのラベルにサンプルを印刷してください。

用紙に適した重量については、「用紙の種類と重量（排紙オプション）」を参照してください。

厚紙に印刷する場合

- 操作パネル、プリンタドライバ、または MarkVision Professional で、[用紙メニュー] の [用紙の種類] を [厚紙] に設定する。[用紙重さ（厚さ）] を [厚紙の重さ] に設定し、[厚紙の重さ] を [普通] または [重] に設定する。これを操作パネル、プリンタドライバ、または MarkVision Professional から設定する。重量が 163 g/m² (90 lb) より重い厚紙の場合は、[重] に設定します。
- プレプリント、ミシン目、折り目は、印刷品質に大きな影響を与えることがあり、用紙の処理や紙づまりに関する問題を引き起こす可能性があることに注意する。
- 加熱すると有毒ガスを放出する可能性がある厚紙の使用を避ける。
- プリンタを汚染する可能性のある化学薬品を使用して製造されたプレプリント厚紙は使用しない。プレプリントから、半液体または揮発性の成分がプリンタに流れ込んでしまいます。
- できるだけ縦目の厚紙を使用する。

その他の用紙を保管する

用紙の適切な保管については、次のガイドラインを参照してください。これらのガイドラインは、給紙時の問題を防いで印刷品質を安定させるために役立ちます。

- 最良の印刷結果を得るために、温度約 21°C (70°F)、相対湿度 40% の環境で用紙を保管する。ほとんどのラベルメーカーは、温度が 18 ~ 24°C (65 ~ 75°F)、相対湿度が 40 ~ 60% で印刷することを推奨しています。
- 用紙をダンボール箱に入れ、台の上か棚において床より高い場所で保管する。
- 梱包された用紙を元のダンボール箱から出して保管する場合は、平らな場所に保管し、用紙の端がゆがんだりカールしたりしないようにする。

梱包された用紙の上に物を置かないでください。

給紙源と仕様を確認する

以下の表に、標準およびオプションの給紙源、[用紙サイズ] メニューから設定可能な用紙サイズ、サポートされる重さを示します。

メモ：表に記載されていない用紙サイズを使用する場合は、その次に大きな用紙を選択してください。

用紙の仕様

用紙サイズとサポート

用紙サイズ 寸法	500 枚カセット	多目的フィーダ	オプションの高容量フィーダ	オプションの両面印刷ユニット	オプションの封筒カセット	オプションのパナーカセット	オプションの 5 トレイメールボックス	オプションの フィニッシャ			
								標準	オフセット (ずらし)	ホチキス	
A3	297 × 420 mm (11.7 × 16.5 インチ)	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗
A4	210 × 297 mm (8.27 × 11.7 インチ)	✓	†	✓	✓	✗	✗	✓	✓	✓	✓
A5	148 × 210 mm (5.83 × 8.27 インチ)	✓	†	✓	✓	✗	✗	✗	✓	✓	✓
JIS B4	257 × 364 mm (10.1 × 14.3 インチ)	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗
JIS B5	182 × 257 mm (7.17 × 10.1 インチ)	✓	†	✓	✓	✗	✗	✓	✓	✓	✓
レター	215.9 × 279.4 mm (8.5 × 11 インチ)	✓	†	✓	✓	✗	✗	✓	✓	✓	✓
リーガル	215.9 × 355.6 mm (8.5 × 14 インチ)	✓	†	✓	✓	✗	✗	✓	✓	✓	✓
エグゼクティブ	184.2 × 266.7 mm (7.25 × 10.5 インチ)	✓	†	✓	✓	✗	✗	✓	✓	✓	✓
フォルリオ	216 × 330 mm (8.5 × 13 インチ)	†	†	✗	✓	✗	✗	✓	✓	✓	✓
ステートメント	139.7 × 215.9 mm (5.5 × 8.5 インチ)	†	†	✗	✓	✗	✗	✗	✓	✓	✗
タブロイド	279 × 432 mm (11 × 17 インチ)	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✗
ユニバーサル**	69.85 × 127 mm ~ 297 × 1219.2 mm (2.75 × 3.5 インチ ~ 11.69 × 48 インチ)	†	†	✗	†	✗	✗	✗	✓	✓	✓
パナー	幅 210 ~ 215.9 mm、 最大長 1219.2 mm (幅 8.27 ~ 8.5 インチ、 最大長 48 インチ)	✗	†	✗	✗	✗	✓	✗	✗	✗	✗
7 3/4 封筒 (Monarch)	98.4 × 190.5 mm (3.875 × 7.5 インチ)	✗	†	✗	✗	†	✗	✗	✗	✗	✗

* 適切なカセットの大きさ検知機能をオフにした状態で、用紙を選択した場合にサポートします。

** 選択した場合、特に値を指定しない限り、ページは 215.9 × 355.6 mm (8.5 × 14 インチ) に設定されます。

用紙の仕様

用紙サイズとサポート (続き)

用紙サイズ 寸法	500 枚カセット	多目的フィーダ	オプションの高容量フィーダ	オプションの両面印刷ユニット	オプションの封筒カセット	オプションのパナーカセット	オプションの5トレイメールボックス	オプションのフィニッシャ		
								標準	オフセット (ずらし)	ホチキス
9 封筒 98.4 × 225.4 mm (3.875 × 8.9 インチ)	✕	†	✕	✕	†	✕	✕	✕	✕	✕
10 封筒 104.8 × 241.3 mm (4.12 × 9.5 インチ)	✕	†	✕	✕	†	✕	✕	✕	✕	✕
DL 封筒 110 × 220 mm (4.33 × 8.66 インチ)	✕	†	✕	✕	†	✕	✕	✕	✕	✕
C5 封筒 162 × 229 mm (6.38 × 9.01 インチ)	✕	†	✕	✕	†	✕	✕	✕	✕	✕
B5 封筒 176 × 250 mm (6.93 × 9.84 インチ)	✕	†	✕	✕	†	✕	✕	✕	✕	✕
その他の封筒 104.8 mm × 210 mm ~ 215.9 mm × 355.6 mm (4.125 インチ × 8.27 イ ンチ ~ 8.5 インチ × 14 インチ)	✕	†	✕	✕	†	✕	✕	✕	✕	✕

* 適切なカセットの大きさ検知機能をオフにした状態で、用紙を選択した場合にサポートします。
 ** 選択した場合、特に値を指定しない限り、ページは 215.9 × 355.6 mm (8.5 × 14 インチ) に設定されます。

各種オプションでサポートされる用紙

用紙	500 枚 カセット	多目的 フィーダ	オプション の高容量 フィーダ	オプション の両面印刷	オプション の封筒 カセット	オプション のパナー カセット	オプション の5トレイ メール ボックス	オプションの フィニッシャ		
								標準	ト オフセッ ト (ずらし)	ホ チキス
用紙	✓	✓	✓	✓	✕	✕	✓	✓	✓	✓
厚紙	✓	✓	✕	✓	✕	✕	✕	✓	✓	✓
OHP フィルム	✓	✓	✕	✕	✕	✕	✕	✓	✓	✕
用紙ラベル	✓	✓	✕	✓	✕	✕	✕	✓	✓	✕
封筒	✕	✓	✕	✕	✓	✕	✕	✕	✕	✕
光沢紙	✓	✓	✓	✓	✕	✕	✕	✓	✓	✕

用紙の仕様

用紙の種類と重量（給紙オプション）

用紙	種類	用紙の重さ			封筒カセット
		500 枚カセット	多目的フィーダ	2,000 枚カセット	
用紙	ゼログラフィまたは ビジネス紙 (片面印刷で使用) ¹	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポン ド) ²	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²	非サポート
	ゼログラフィまたは ビジネス紙 (両面印刷で使用)	75 ~ 176 g/m ² 縦目 (20 ~ 47 lb ポンド)	75 ~ 176 g/m ² 縦目 (20 ~ 47 lb ポンド)	75 ~ 176 g/m ² 縦目 (20 ~ 47 lb ポンド)	非サポート
光沢紙	ブック	88 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 120 lb ブック)	88 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 120 lb ブック)	88 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 120 lb ブック)	非サポート
	カバー	162 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 65 lb カバー)	162 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 65 lb カバー)	162 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 65 lb カバー)	非サポート
厚紙 — 上限 (縦目) ^{2, 3}	インデックス ブリストル	163 g/m ² (90 lb)	163 g/m ² (90 lb)	非推奨	非サポート
	タグ	163 g/m ² (100 lb)	163 g/m ² (100 lb)	非推奨	非サポート
	カバー	176 g/m ² (65 lb)	176 g/m ² (65 lb)	非推奨	非サポート
厚紙 — 上限 (横目) ^{2, 3}	インデックス ブリストル	199 g/m ² (110 lb)	199 g/m ² (110 lb)	非推奨	非サポート
	タグ	203 g/m ² (125 lb)	203 g/m ² (125 lb)	非サポート	非サポート
	カバー	216 g/m ² (80 lb)	216 g/m ² (80 lb)	非サポート	非サポート
OHP フィルム ²	レーザープリンタ	161 ~ 169 g/m ² (43 ~ 45lb ポンド)	161 ~ 169 g/m ² (43 ~ 45lb ポンド)	非サポート	非サポート
ラベル — 上限 ^{2, 4, 7}	用紙	180 g/m ² (48 lb ポンド)	199 g/m ² (53 lb ポンド)	非サポート	非サポート
封筒 ²	亜硫酸パルプ、 上質紙、または 最大 100% の コットンポンド紙	非サポート	60 ~ 105 g/m ² (16 ~ 28 lb ポンド) ^{5, 6}	非サポート	60 ~ 105 g/m ² (16 ~ 28 lb ポンド) ^{5, 6}

¹ 75g/m² (20lb ポンド) 未満の重さの用紙は、60% 未満の相対湿度での片面印刷のみに制限されます。

² 両面印刷では、どの給紙源でもこの用紙の重さをサポートしていません。

³ 60 ~ 90g/m² (16 ~ 24lb ポンド) の用紙の場合は、縦目の繊維を推奨します。176 g/m² (47 lb ポンド) より重い用紙の場合は、横目を推奨します。

⁴ 圧力に敏感な部分が最初にプリンタに入る必要があります。

⁵ 100% コットン含有率の最大重量は 90.2 g/m² (24 lb) ポンドです。

⁶ 105 g/m² (28 lb ポンド) の封筒は、コットン含有率が 25% に制限されます。

⁷ 少量の用紙ラベルを時おり印刷する場合のみ。

用紙の仕様

用紙の種類と重量（排紙オプション）

用紙	種類	用紙の重さ				
		標準排紙トレイと オプション排紙 増量器	5トレイメール ボックス	オプションのフィニッシャ		
				標準	オフセット (ずらし)	ホチキス
用紙	ゼログラフィ またはビジネス紙 (片面印刷で使用) ¹	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²	60 ~ 74.9 g/ m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²	60 ~ 74.9 g/m ² 縦目 (16 ~ 19.9 lb ポンド) ²
	ゼログラフィ またはビジネス紙 (両面印刷で使用)	75 ~ 176 g/m ² 縦目 (20 ~ 47 lb ポンド)	75 ~ 90 g/m ² 縦目 (20 ~ 24 lb ポンド)	75 ~ 90 g/m ² 縦目 (20 ~ 24 lb ポンド)	75 ~ 90 g/m ² 縦目 (20 ~ 24 lb ポンド)	75 ~ 90 g/m ² 縦目 (20 ~ 24 lb ポンド)
光沢紙	ブック	88 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 120 lb ブック)	非サポート	88 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 120 lb ブック)	88 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 120 lb ブック)	非サポート
	カバー	162 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 65 lb カバー)	非サポート	162 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 65 lb カバー)	162 ~ 176 g/m ² 縦目 (60 ~ 65 lb カバー)	非サポート
厚紙 — 上限 (縦目) ^{2, 3}	インデックス ブリストル	163 g/m ² (90 lb)	非サポート	163 g/m ² (90 lb)	163 g/m ² (90 lb)	非サポート
	タグ	163 g/m ² (100 lb)	非サポート	163 g/m ² (100 lb)	163 g/m ² (100 lb)	非サポート
	カバー	176 g/m ² (65 lb)	非サポート	176 g/m ² (65 lb)	176 g/m ² (65 lb)	非サポート
厚紙 — 上限 (横目) ^{2, 3}	インデックス ブリストル	199 g/m ² (110 lb)	非サポート	199 g/m ² (110 lb)	199 g/m ² (110 lb)	非サポート
	タグ	203 g/m ² (125 lb)	非サポート	203 g/m ² (125 lb)	203 g/m ² (125 lb)	非サポート
	カバー	216 g/m ² (80 lb)	非サポート	216 g/m ² (80 lb)	216 g/m ² (80 lb)	非サポート
OHP フィルム ²	レーザープリンタ	161 ~ 169 g/m ² (43 ~ 45 lb ポンド) ^{4, 5}	非サポート	161 ~ 169 g/m ² (43 ~ 45 lb ポンド) ^{4, 5}	161 ~ 169 g/m ² (43 ~ 45 lb ポンド) ^{4, 5}	非サポート
ラベル — 上限 ^{2, 4, 7}	用紙	180 g/m ² (48 lb ポンド)	非サポート	180 g/m ² (48 lb ポンド)	180 g/m ² (48 lb ポンド)	非サポート
封筒 ²	亜硫酸パルプ、 上質紙、または 最大 100% の コットンポンド紙	60 ~ 105 g/m ² (16 ~ 28 lb. ポンド紙)	非サポート	非サポート	非サポート	非サポート

¹ 75 g/m² (20 lb ポンド) 未満の重さの用紙は、60% 未満の相対湿度での片面印刷のみに制限されます。

² 両面印刷では、どの給紙源でもこの用紙の重さをサポートしていません。

³ 60 ~ 176 g/m² (16 ~ 47 lb ポンド) の用紙の場合は、縦目の繊維を推奨します。176 g/m² (47 lb ポンド) より重い用紙の場合は、横目を推奨します。

⁴ 圧力に敏感な部分が最初にプリンタに入る必要があります。

⁵ 100% コットン含有率の最大重量は 90.2 g/m² (24 lb) ポンドです。

⁶ 105 g/m² (28 lb ポンド) の封筒は、コットン含有率が 25% に制限されます。

⁷ 少量の用紙ラベルを時おり印刷する場合のみ。

用紙の容量

凡例 ✓ — サポート ✗ — 非サポート	500 枚 カセット	多目的フィーダ	オプションの 2,000 枚 カセット	オプションの 封筒カセット	オプションの バナー カセット
用紙の種類					
用紙	500 枚*	100 枚*	2,000 枚*	✗	✗
厚紙***	状況による**	状況による**	✗	✗	✗
用紙ラベル***	200	状況による**	✗	✗	✗
OHP フィルム	350	状況による**	✗	✗	✗
封筒	✗	10 (Com 10)	✗	60	✗
バナー用紙	✗	✗	✗	✗	50

* 75 g/m² (20 lb) の用紙の場合。

** 容量は、用紙の重量や種類によって変わります。

*** 少量の用紙ラベルを時おり印刷する場合のみ。